



2022年11月10日

各 位

会 社 名 ENEOSホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 齊藤 猛  
 コード番号 5020 東証プライム・名証プレミア  
 問合せ先 インベスター・リレーションズ部 IRグループ マネージャー  
 横山 翔  
 (電話番号 03-6257-7075)

## 2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想(以下、「前回予想」)を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 2023年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A) (2022年5月13日発表)	12,800,000	340,000	310,000	170,000	52円94銭
今回修正予想(B)	14,900,000	560,000	540,000	330,000	107円58銭
増減額(B-A)	2,100,000	220,000	230,000	160,000	54円64銭
増 減 率	16.4%	64.7%	74.2%	88.2%	97.1%
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	10,921,759	785,905	771,789	537,117	167円27銭

(注) 2022年8月12日公表の通期の連結業績予想では、5月13日公表を据え置きました。

## 2. 修正の理由

前回予想以降、円の為替相場は前回予想の前提より円安水準で推移しており、原油および石油製品等の在庫評価による利益(在庫影響\*)が2,200億円(前回予想では、ゼロ)となる見込みであることから、営業利益は、前回予想比2,200億円増益の5,600億円となる見通しです。

また、親会社の所有者に帰属する当期利益も同様に、前回予想から増益となる見通しです。

なお、在庫影響を除いた営業利益相当額は3,400億円と、前回予想を据え置いております。

\* 総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

## &lt;営業利益に占める在庫影響&gt;

(単位:億円)

	前回予想	今回予想	増 減 額
営業利益	3,400	5,600	2,200
在庫影響	0	2,200	2,200
在庫影響を除いた営業利益相当額	3,400	3,400	0

事業セグメント別の在庫影響を除いた営業利益相当額については、エネルギー事業は原油価格上昇に伴う燃料費の増加や石油化学製品マージンの悪化等により前回予想比200億円の減益となる一方、

石油・天然ガス開発事業は原油・ガス価格の上昇、円安の進行等により前回予想比 200 億円の増益を見込んでおります。

＜事業セグメント別内訳＞在庫影響を除いた営業利益相当額 (単位：億円)

	前回予想	今回予想	増減額
エネルギー事業	900	700	△200
石油・天然ガス開発事業	700	900	200
金属事業	1,300	1,300	0
その他の事業	500	500	0
合計	3,400	3,400	0

なお、本見通しは、通期平均で原油価格(ドバイ原油)；バーレル当たり 96 ドル(10 月以降 90 ドル)、銅の国際価格(LME 価格)；ポンド当たり 366 セント(10 月以降 340 セント)、円の対米ドル相場；137 円(10 月以降 140 円)を前提としております。(前回予想：原油価格；バーレル当たり 90 ドル、銅の国際価格；ポンド当たり 420 セント、円の対米ドル相場；120 円)

(注) 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、(1) マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、(2) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響、(3) 法律の改正や規制の強化、(4) 訴訟等のリスクなど、が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上